

またぞろインフルエンザが再来す。コロナもしかり。
手洗いと、うがいと、マスク。これのみ。

当院では熱発患者さんに積極的にコロナ、インフルエンザ、マイコプラズマの検査(鼻汁+抗原テスト)を行っている。その理由は対処薬があるから。重症化を防げるし、病気を拡めないという社会的な意義もあるから。ただし検査結果までに10~15分間が必要だし、もし陰性の場合、その日のうちに白黒をつけねばならぬため、胸部X線、CT、検尿、エコーなどさらに時間がかかる。追加の検査が必要となるかもしれない。だから高熱とわかれば、できれば診察終了30分前には来て頂きたい。ギリギリだと翌日再来をお願いする可能性もあるから。御理解下さいませ。

年末に癌の肺転移による呼吸難の患者さんを在宅で看取った。麻薬(モルヒネ様薬剤)を用いて、苦しみをなるべく減らし旅立った。
麻薬に対しての先入観のため、有効性まで否定する方はかなり減ったと思う。苦しみを取り去り、多幸感をもたらす事で、死の恐怖も失くしてくれる効果は絶大ゆえ、必須の薬だ。

内服薬とテープ剤と坐薬があるが、私はテープ剤を多用する。理由は、病気が進むにつれ経口内服が難しくなるから。テープ剤だったら確実に投与が可能だ。
薬が飲めないほど苦しんでいる際には、坐薬は速効的にそれを和らげてくれる。癌転移の中でも肺転移の苦しみは尋常でない。水に溺れると同じだから。家族も見えていられない。在宅酸素と麻薬があれば自宅で過ごせる。医療の中で最大の恩恵といえると思う。

さて私事。昨年からは習字を始めた。初め妻に勧められ中国漢字を書いていたが、うーむ、物足りぬ。見つけたのは幕末の儒学者佐藤一斎の「言志四録」だ。論語、朱子学、陽明学など東洋の見解が、彼の脳内で熟成された、思案の成果を集めた語録だ。

仏教がやや抽象的な哲学であるのに比して、具体的で滋味のある言葉。西郷隆盛、佐久間象山、横井小楠らも師事学んだ人生の書。ゆっくりていねいに、脳ミソに刻みつけるように、毎日曜朝に筆で書写する。替え難い人生の習慣になりそうだ。カルチャーラジオ古典講読に沿った源氏物語通読も、「若菜」に至った。それにしても、主語無しに敬語のみで登場人物を把握できた、中世貴族の言語能力はホント素晴らしいなと感心する。



ハーブ内科皮フ科 理事長 竹内秀俊



スイーツバイキング🍰
厨房さんが三種のスイーツを作って下さいました



皆さんとても美味しそうにペロリと召し上がりました😊



院長先生がデイサービスの一日体験に来て下さいました。記念に、はいポーズ!!



院長先生と一緒に集団体操を行いました。利用者様も張り切って取り組みました。



Instagram ご覧ください
★フォローおねがいます★

発行元：医療法人ハーブ内科皮フ科
株式会社ハーブライフケア

所在地 知多郡阿久比町横松宮前 67
TEL 0569-49-2752/FAX 0569-49-2753